

特集 平成13年度決算

※詳しい決算資料については、市役所の情報公開コーナーをご覧ください。 特集 平成13年度決算



向日市長 岡崎 誠之

行財政改革を積極的に推進

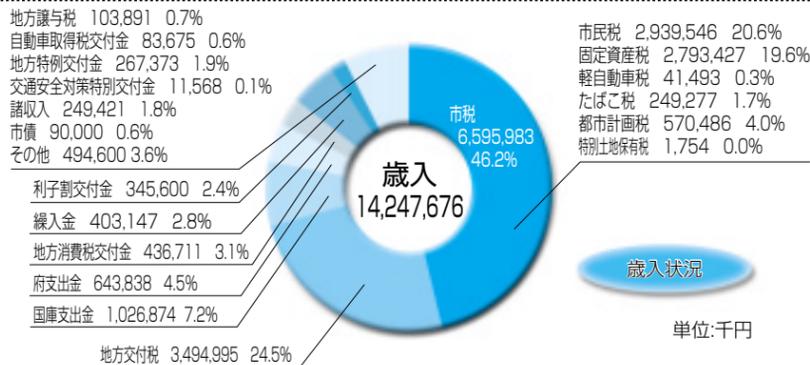
平成13年は新しい世紀の最初の年でありましたが、本市を取り巻く環境は、少子・高齢社会への移行、環境負荷の少ない循環型社会の形成、地域経済の活性化、IT革命の推進、さらには国の構造改革や地方分権の推進など、急速な変貌のはじまりでもありました。

このため、私は、これらの環境の変化に的確に対応し得る体制を整え、市民が将来に希望を持ち、個性豊かで魅力あるまちを築くため、「安全・安心」を基本とした笑顔が輝く健康都市の実現に向け、予算を編成し、執行したところであります。

とりわけ、災害に強いまちづくりをはじめ、市民の健康づくり、福祉や教育の一層の充実、遅れている都市基盤整備、環境にやさしいまちづくりなどの諸施策を可能な限り推進いたしました。

一方、窮迫する本市財政を建て直し、健全性を回復させることが、喫緊の課題でありますことから、財政健全化計画に基づき、引き続き財政の健全化にも心血を注いだところであります。

Table with financial summary: 一般会計 (歳入 14,247,676千円, 歳出 14,123,166千円), 特別会計 (国民健康保険事業, 老人保健医療, 介護保険事業, 下水道事業, 大字寺戸財産区, 物集女財産区), 水道事業会計 (歳入 1,598,574千円, 歳出 2,212,396千円)



生きがいをもって心豊かに暮らせるまちづくり

生涯学習基本計画の策定、家庭教育学級の開催や生涯学習ボランティアの育成、幼稚園就園奨励費で教材費補助を増額、スクールホッパインや適応指導教室を設置、小・中学校施設のリフレッシュ業務委託、校舎整備費の増額、スクールカウンセラーや心の教室相談員を配置、全中学校の教育用コンピュータを一新、給食調理業務の民間委託を第3向陽小学校で実施、女性のための相談事業を実施、平和と人権のつどいの開催、人権と同和問題に関する調査を実施、広島市平和祈念式へ市民を派遣、平和書道展の開催、小

学校全児童に平和啓発文具を配布、向日市文化創造プランを策定、「かぐや姫行列」や「かやぶきコンサート」への市民参加事業を実施、市民会館の外壁を改修、ミニギャラリーの整備、長岡宮跡朝堂院西第四堂用地を乙訓土地開発公社で先行取得、京都府の図書館総合目録ネットワークに加入、「西国街道向日前新町調査」の実施、本市の近代の歩みを綴った「20世紀のむこうまち」を刊行、各種スポーツ大会やスポーツ教室を開催、サラトガ市との交換学生事業、杭州市での国際友好西湖マラソンへの市民参加



みんなが健康で笑顔にあふれたまちづくり

健康づくりサポーターの養成、健康都市づくり市民会議の活動を支援、「向日市保健計画」の改定、高齢者等のインフルエンザ予防接種を一部公費で実施、基本健康診査や各種がん検診、骨粗しょう症健診を実施、高齢者への訪問リハビリ・看護指導の充実、乳幼児・妊婦健康診査や乳幼児家庭訪問指導、在日外国人高齢者特別給付金制度を新設、乙訓福祉会、向陵会、乙の国福祉会の施設運営補助、国保会計の健全化を図るため、一般会計から繰出、敬老会の開催や老人クラブ活動費補助、あんしんホットラインの設

置、高齢者配食サービスを実施、老人福祉センター琴の橋や桜の径で、生涯学習や世代間交流事業、市民ふれあい事業を実施、無認可保育所への運営補助や母子家庭福祉補助、乳幼児医療助成、児童手当の支給、一時保育事業や延長保育事業を開始、市内3箇所目の子育て支援センターを設置、レスパイトサービスや在宅重度障害者緊急一時保護事業、障害者手当の支給や重度心身障害老人への医療費の一部助成、心身障害者共同作業所への通所援護や施設整備運営補助



計画目標値をほぼ達成

向日市財政健全化計画(平成9年度~13年度)

Table showing fiscal health plan progress: 経常収支比率 (98.2% to 89.8%), 公債費比率 (17.6% to 14.3%), 市債現在高 (15,795 to 11,200 million yen), 市職員数 (539 to 512)

※平成14年4月に設立された乙訓消防組合へ移管した元市職員は、57人で合わせると504人になります。

平成9年度から13年度まで財政健全化計画に取り組んだ結果、財政状況は計画的に改善でき、また、計画にかかげた目標もほぼ達成できました。しかし、これらの水準はまだ高い水準にあり、引き続き財政健全化を強力に推進していく必要があります。

平成13年度決算報告 経常収支比率は89.8%

平成13年度の決算が、9月定例会議会で承認されました。一般会計の決算は、歳入142億4,767万6千円、歳出141億2,316万6千円、歳入歳出差引額は1億2,451万円で、実質収支は同額の黒字になりましたが、実質単年度収支は財政調整基金を取り崩したことにより、2億9,753万2千円の赤字となりました。

また、財政健全化のバロメーターである経常収支比率(財政の弾力性を判断する指標)は89.8%、公債費比率は14.3%になり、一定の財政改善が図れました。

財政健全化をさらに推進

平成13年度の財政状況は、歳入面では、長引く景気低迷と恒久減税の制度化などの影響により、市税が平成10年度以来、4年連続して前年度を下回り、さらに地方交付税、利子割交付金も減収となり、歳入環境は誠に厳しい状況でした。

一方、歳出面では、人件費・扶助費・公債費の義務的経費が市税収入を大きく上回る中で、公共施設の管理経費をはじめ、一部事務組合負担金、特別会計への繰出金など、経常的経費の増大に加えて、少子高齢化やIT関連、環境変化などの新たな行政需要への対応も加わり、引き続き逼迫した状況が見込まれるところであります。

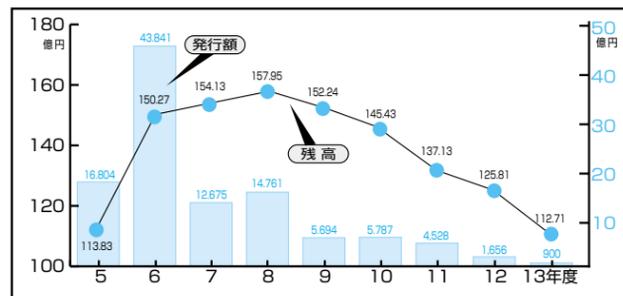
このため、「行財政改善方策実施計画」及び「財政健全化計画」に基づき、人件費対策、補助金の見直し、事務事業の一層の洗い直しを行い、限られた財源の重点配分と、歳出全般にわたり、徹底した経費削減と効率的な執行に努めました。

また、歳入面では、市税のほか、国・府支出金など、財源の確保に努め、さらに基金の活用を図りました。

また、市債については、公債費の状況に鑑み、発行を極力抑制しました。

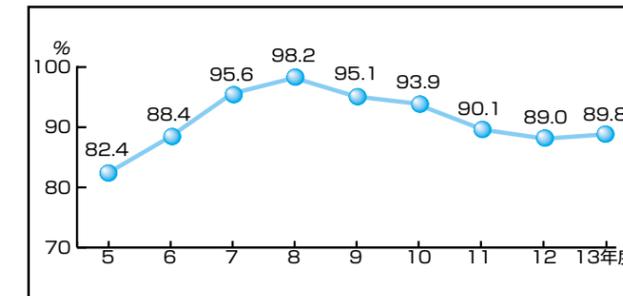
この結果、平成13年度歳入歳出差引額は、黒字決算とすることができましたが、財政調整基金の取り崩しにより、収支の均衡を図ったことから、実質単年度収支は、平成9年度以来の赤字となりました。

市債残高と発行額

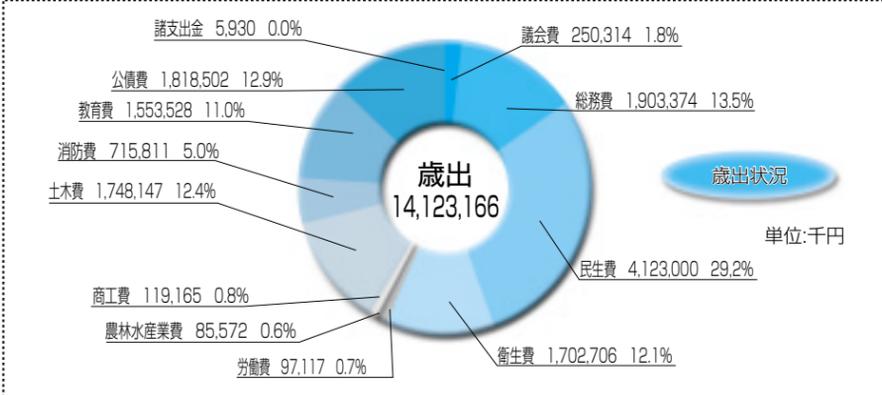


市債は、極力発行抑制に努め9,000万円のみを発行し、前年度に比べて45.7%の減となりました。この結果、市債残高は、前年度と比べて、13億9,191万1千円減の112億7,146万1千円となりました。

経常収支比率



経常収支比率・財政構造の弾力性を判断するため用いられる指標で、この比率が高いほど財政が硬直しており、建設事業など臨時の行政需要に充当できる財源が少ないことを表しています。



にぎわいと活力にあふれたまちづくり

農作業受託組織への農業機械購入補助、若い農業担い手育成のための「いきいき農業塾」を開催、市民健康農園や、市民の花「ひまわり」等の観賞園の設置、むこう愛菜市の拡大、ブランド特産物の育成や無農薬・有機栽培など環境にやさしい農業を推進、経済講演会の開催、経営診断の実施、向日市商工会への活動費補助、経営安定特別相談を実施、向日市観光協会設立準備、西ノ岡散策道「竹の径」の整備、観光写真コンテストの実施、ふるさと産品推進補助、向日市まつりの助成、土地区画整理事業導入の検討、「北部地域まちづくり懇談会」を開催、寺戸幹線6号歩道新設工事ほか9箇所の改良工事、交通安全施設整備や市内46箇所のバリアフリー化工事、市民のパソコン技術習得や情報活用能力の向上を図るIT講習会を開催



快適な環境とやすらぎのあるまちづくり

自然環境の保全や公害対策、地球環境問題への対応など、総合的な環境対策の指針となる環境基本計画を策定、「エコライフ向日」の発行、リサイクル「ひまわり市」の開催、牛乳パックの再利用、その他プラスチックの分別収集を開始、大型ごみの戸別有料収集、都市計画の基本的な指針となる都市計画マスタープランを策定、物集女町中条公園ほか8箇所の公園で遊具の設置や整備、緑化園芸教室や緑化ポスター展の開催



暮らしに安全・安心のあふれるまちづくり

非常用備蓄物資や災害用備品の購入、自主防災組織や女性防火推進員の育成、自治会等に対する防火・防災器具設置補助、防災パトロールや総合防災訓練の実施、石田川1号雨水幹線築造工事を推進、乙訓消防組合を本年度から発足、水道事業では、ISO14001の認証を取得、上植野浄水場受水池兼浄水池築造工事、街路灯を新設・補修、地域安全隊を設置、チャイルドシート貸出し事業、撤去自転車保管場の整備、消費生活相談を拡充、消費生活展などを開催、深田川リメイク委員会を設置、広報「むこう」やインターネットホームページによる情報発信、メールマガジンを配布、市民ガイドブックの改訂、市長への手紙やファックスふれあい通信などを実施